

第2回ミドルリーダー研修

令和2年12月10日(木) 奈良市役所

「写真から振り返る保育環境 ～子どもの経験から考える～」

講師 京都教育大学 准教授 佐川 早季子氏



1. グループワーク

- 実践シートと経過が分かる写真を用いてグループ内で報告し、質問や感想を話し合う

往還的研修

実践シートの内容

- ・ 前回の研修での学びから設定した課題や目標
- ・ 実践をして得た気づきや、意図して変えた保育環境で見られた変化

○ 発表事例（実践シートより）

課題…子どもが自然物を手に取りやすい環境作り

目標…明日も遊びの続きをしたいと思える環境構成

実践…① 子どもができる自然物の仕分け方

② 掲示方法を変化

③ 図鑑を持ち出しやすい環境を工夫

変化…図鑑の活用が増え、自然物の観察（形・色・大きさ等の比較）を楽しむようになったり、家庭から自然物を持ってきたりするようになった。

○ 佐川先生より 指導・助言 【保育の環境構成のポイント】

☆遊びの中で生まれてくる、子どもたちの「思い」の見取りが鍵…

何が「思い」か分かりにくい時、実現できない時は、保育者がじっくり子どもの思いを受け止め一緒に考え、場を構成すること

- ・ 子どもの姿や様子に合わせ、環境を即興的に再構成すること
- ・ 遊びの中の面白さを捉え、子どもが捉えている面白さを思う存分楽しめるような環境を作ること
- ・ 完結した遊び⇒別のルートで遊びをつなげ、広げ、保育内容（5領域）の経験の幅を広くするために、隣接する遊びを見て環境構成を工夫すること
- ・ 「子どもたちだけではできない」時は、保育者が丁寧に聞き取ること
⇒軌道に乗る・自信につながる（人的環境の重要性）
- ・ 遊びが継続するための環境の工夫
- ・ 環境に触発されて、子どもたちの「思い」が生まれるように環境を見直すこと

2. 講演「同僚を支えるミドルリーダーとしての目標を見つける」



○往還的研修（前回の研修を踏まえ）で行ってきたこと

- ・自分自身が保育を探求する（やってみる）姿
- ・子どもの経験から、根拠をもって保育環境の構成について考える
- ・ミドルリーダーとして、自分の経験を元に後輩の「やってみよう」を支える

試行実践

ふり返り

同僚の保育をサポートし、指導する力

○ミドルリーダーの役割：同僚のサポート

〈支援的なリーダーシップ〉

- ◇ 一人ひとりを理解しようとする
- ◇ 一人ひとりの希望や悩みを把握したフィードバックをする

〈ロールモデル〉

- ◇ 実践者として憧れる存在
- ◇ 近未来を見せる存在

〈指導のありよう〉

- ◇ （自分自身が）保育を探求するおもしろさ、楽しさとの出会いを前提に
- ◇ 方法やモデルを提案しつつも（同僚の）自己決定を尊重する姿勢
→「やってみる」ことを奨励する（失敗はつきもの！）

3. ワーク

* 「園づくりのことばカード」（井庭崇・秋田喜代美 編著）を用いて

1. 5枚のカードを並べ、一人ずつ直感で気になるカードを手にする。
2. 選んだカードの内容を見せ、その概要を紹介し、自分の経験談や実践例を語る。
3. 置かれたカードの中から、自分を取り入れてみたい・やってみたいカードを選び、自園で同僚（後輩）をサポートするときの具体的な目標に書き換える。

グループワーク 「同僚をサポートするための目標を見つける」



* 発表より * （選んだカード→自園での目標）

- ・楽しむきっかけ→日々のコミュニケーションを大切に、同じ方向を向いて保育を行う。
- ・やる気ができる手助け→今、困っていることを保育者間で話し合い、解決できるように一緒に考えていく。
- ・未来のリーダー→今の状況や子どもの姿をしっかりと見、その時々にあった保育をする。

○保育の質を高める鍵を握るミドルリーダー

- 経験を重ねたからミドルリーダーになるのではない
- いかにか子どもを見る（見取る）力を養い、
子どもの経験から保育方法（環境）を問い直し、
子どもの行為に気づく力をつけていくかが重要

子どもとどうかかわっていくのか、どうしていきたいかを考えることが成長につながる



そのためには、

- 具体的な事例を共有し、互いの思い（願い）やその思い（願い）から生じる保育方法を、「何のためにそうするのか」という目的に基づいて理解することが必要
- 園内研修、もしくは、ちょっとした立ち話でも機会を見つけ、同僚と同じ立場で共感的に話をし、考える機会をつくっていく
- 対話のプロセス（自己内対話＝自分の中で対話する。人との対話＝フィードバック）が必要不可欠

4. 佐川先生より講評

後輩の先生と同じ保育現場で保育をしているからこそ同じ目線で一緒に考え、行動でき、具体的な助言ができる。“保育に失敗はつきもの（失敗とは「やってみて、ああだった、こうだった、あれはだめだった」など）”と保育のことを面白がって語っている姿・背中を見せることが園での一番の影響力になる。これからも保育について語り、楽しんで面白がってください。

《全2回を通して受講された方の感想及び今後の目標》

- “一緒に考える”ということを基本に、コミュニケーションをしっかりとって“同じ目線”で考え、同僚の自信につながるようなサポートを意識的にしていきたい。
- 他園の先生方と保育について語ることで自分自身の確固たる保育への思いを再認識しました。
- 自分が保育を楽しむ姿を見せること、話を聞いてあげることもミドルリーダーとしての役割であることがわかり、これからは前向きな気持ちを持ち、子ども大好きということを忘れず自分自身が楽しんでいきたい。
- 自分の持っている情報や知識を、同僚の保育のサポートに使えるように、縁の下の力持ちになりたい。

作成者 幼児教育アドバイザー 林 真由美・西田 真由美